

「コンピテンシーに基づく教育」の受容に関する日 中比較研究 : Global/Local Nexus を踏まえた教育 借用論の再考

関, 楽平

<https://hdl.handle.net/2324/7363554>

出版情報 : Kyushu University, 2024, 博士 (教育学), 課程博士
バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)



氏 名	関 楽 平			
論 文 名	「コンピテンシーに基づく教育」の受容に関する日中比較研究 ～ Global/Local Nexus を踏まえた教育借用論の再考 ～			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	竹熊 尚夫
	副査	九州大学	教授	田上 哲
	副査	九州大学	教授	Vickers Edward
	副査	九州大学	准教授	伊藤 崇達

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は日中両国を事例として、グローバルな言説となった「コンピテンシーに基づく教育 (Competency-Based Education, CBE)」の受容プロセスを、グローバル、ローカルとその接点という視座で捉える Global/Local Nexus (GLN) 論を基に、これをさらに精緻化することで、政策借用・形成のダイナミズムを解明した比較教育学研究である。本研究はまず、71 か国に及ぶ CBE 改革の採用に関する先行研究および政府文書、国際組織による研究報告を丁寧に読み解くことから始め、その「グローバル潮流」の提唱者とされる OECD や EU が、実質的には多義的であった CBE 改革を新自由主義的な枠組みにパッケージ化、収束化することで潮流化したこと、そしてその一方で、近年のグローバルな次元では、特に後期の採用において CBE 受容が国によって変異し、多様化していることも明らかにしている。次に、同時期の日中両国の政策形成に関する多面的な資料分析の結果、CBE 政策借用が単なるグローバルな潮流への応答にとどまらず、ナショナルな次元では個人および組織など多様なアクターの介在によって、中国では「立德樹人」理念の包摂による「核心素養」の思想政治的性格の強力化、日本では公教育をめぐる省庁間の緊張関係により促された文科省の日本型学校教育の「全人的性格」アピールといった、独自の文脈との絡み合いの結果として形成されていくプロセスを解明した。続いて、政策実施の次元では、カリキュラム、教師教育および教育評価など教育諸制度をめぐる政策文書、規則、システムの修正・調整の分析を通して、ナショナルカリキュラムの権威化や公教育の目標の「揺らぎ」など CBE の制度化に伴う諸現象を明らかにした。さらに実装の次元としての学校現場では、CBE への受容が教育課程の多様化と教科脱却の傾向を促していること等を示している。

以上のように本論文は、精緻化された GLN モデルと各次元での多彩な分析手法を組み合わせることで、CBE 改革が「グローバル潮流」による普遍化や多義性、潮流の時期区分に伴う個々の借用方略、介在する多面的・多層的なアクターなどによって変化し、受容されてきたそのダイナミズムをグローバルな視座の基に明らかにしたものである。その知見と方法論の開発は比較教育学のみならず教育借用研究にとっても大きく貢献するものと評価できる。

よって、本論文は博士（教育学）の学位に値するものと認める。